

<お問い合わせ先>

国立淡路青少年交流の家 企画指導専門職

E-mail : awaji-senmon@niye.go.jp

TEL : 0799-55-2696

プラス
+

防災・減災クエスト

▶どの しれんに ちょうせん する？

- ▶ものの しれん
- ▶ちからの しれん
- ▶なわの しれん
- ▶ほのおの しれん
- ▶しよくの しれん

ゆうしゃ

じしん はっせい！ そのとき きみに なにが できる？

なかまと きょうりよくして 5つの しれんを クリアしよう！

■概 要

グループで協力して課題解決する活動を通して、防災・減災について考えます。

■ねらい

- ◆災害時に必要な知識やスキルを学び、防災に関する考えを深める。
- ◆仲間とともに活動に取り組む。
- ◆グループ内でのコミュニケーションの促進を図る。
- ◆グループに対する個人の関わり方について考える。

■準備物

	準備物	必要数
1	●スポンジ、金タワシ	グループ数
2	●軍手(綿100パーセントで滑り止めのついてないもの)	人数分
3	●食品用ラップフィルム	グループ数
4	●ふきん	グループ数
5	●食材(食堂に注文) ※持ち込みは禁止です。	人数分
6	●薪(食堂に注文)	必要分
7	●新聞紙	必要分
8	●着火ライター	グループ数
9	●食器洗い洗剤、クレンザー	グループ数
10	○水筒、帽子、タオル	各自
11	△食器、鍋、調理器具	
13	△活動に必要な物品(非常品持ち出しカード・ワークシート、毛布、ロープ、薪、メタルマッチ、麻ひも、トレー、魔法のかまどごはん)	

■服装

運動ができる服装

運動靴、上靴(室内で実施する場合)

■事前

- ・団体内で班分けを考え、班編成を「活動計画書」に記入して提出してください。
- ・食の試練のメニューは**カレーセットのみ**です。
- ・薪は、「宿泊者数・食事数・シーツ数変更票」または「物品申込フォーム」に必要数を記入し、食堂へ E-mail または FAX で送信してください。
- ・実施当日、食材等を食堂職員から受け取る。

■指導者、人数、費用など

対象	小学校5年生以上
指導形態	職員が活動の説明・進行・ふりかえり等を指導します。 ※活動によっては団体指導者のサポートをお願いします。 ※「食の試練」は、間接指導になりますので、団体指導者による指導をお願いします。
人数	～40人 ※41人以上で実施する場合はご相談ください。
1グループあたりの人数	6～8人(最大5グループ)
費用	1回につき指導料 <u>7,500 円</u> に加え、 <u>食材費(人数分)、薪代(グループ数分)</u> ※かまど1つにつき薪は2～3束必要です。 ※食材費、薪代は HP よりご確認ください。
実施時間	6時間程度
場所	屋外、屋内どちらでも可 食の試練は野外炊飯場で実施
時期	1年中

●…必要なもの

○…あるとよいもの

△…交流の家にあるもの

■展開

	職員の動き	研修生の動き	団体指導者の動き
導入	防災・減災クエスト+のねらいと内容を説明する。	活動場所に集合し、班ごとに整列する。	
物の試練 力の試練 縄の試練 炎の試練	<ul style="list-style-type: none"> ・各活動25～30分で、4つの活動(①物の試練、②力の試練、③縄の試練、④炎の試練)を行う。 ・各活動の説明、タイムキーパーを行う。 ・各活動の最後に行う振り返りの進行をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの試練を、班で協力しながら行う。 <p><「力の試練」留意事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふざけて運ばない。 ・負傷者役が毛布に寝てから運び始める。 <p><「炎の試練」留意事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・メタルマッチの火花を人に向けてない。 ・やけどをしないように注意する 	<ul style="list-style-type: none"> ・各活動中に研修生を見守り、必要に応じて助言をする。 ・「力の試練」「炎の試練」の際には、各班の近くで安全管理に努める。
食の試練	<p>事前に団体指導者に以下の2点を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災野外炊飯を行う上でのルール、諸注意を行う。 ・魔法のかまどごはんの使い方の説明を行う。 <p>※食の試練は間接指導になります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災野外炊飯のルール、諸注意を聞く。 ・食器を運び、数を数えた後に洗う。 ・食材を切る。 ・常設かまどでカレーを作る。 <p>※メタルマッチを使って火をつける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魔法のかまどごはんでごはんを炊く。 ・食材や作った仲間感謝して食べる。 ・食べ終わったグループから片付けを始める。 ・野外炊飯場の点検を受ける。 ・活動を振り返り、班内で意見を述べ合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食材等を食堂職員から受け取る。 ・防災野外炊飯を行う上でのルール、諸注意を行う。 ・魔法のかまどごはんの使い方の説明を行う。 ・安全に調理が進められるように、研修生の指導を行う。 ・「自助・共助」について話す。 ・活動の振り返りの進行を行う。

※教材提供(魔法のかまどごはん):タイガー魔法瓶株式会社

■留意点

安全上の留意点

- ・衛生面に配慮して、食材・食器類を取り扱ってください。
- ・火、刃物などには十分配慮をしてください。
- ・食材の持込はできません。

指導上の留意点

グループで課題を解決しながら、体験を通して防災・減災に関する考えを深めることを目的としています。活動中に様々な意見を出し合いながら、災害時にどのような行動をするのがよいのかを考えることが参加者たちに求められており、ふりかえりの重要なポイントとなります。指導にあたる方々はそのことを十分に踏まえ、活動中にグループをうまく機能させるための助言や安全面以外での過度なグループへのかかわり、指示や介入は避けたほうがより効果的です。

■雨天時の対応

雨天時でも実施可能です。

■活動一覧

①「物の試練」

ねらい:グループで非常持ち出し品を考えることで、人や状況によって必要なものが違うことに気づく。また、限られた時間内で合意形成を行う難しさや、他の意見を聞くことで新たな視点に気づき、自分の考えが深まることを体験する。



②「力の試練」

ねらい:毛布を使って人を運んだり、運ばれたりする体験をすることで、身の回りにあるものが、本来の用途以外にも活用できることに気づく。また、人を運ぶ際にどのような気遣いがあればよいかに気づく。



③「縄の試練」

ねらい:「巻き結び」を使って、木の束を結ぶ体験をすることで、様々な場面で巻き結びが役立つことを知り、他の結び方への興味を高める。



④「炎の試練」

ねらい:メタルマッチの使い方や有用性を知る。また火おこしを体験することで、様々な場面における火の有効性に気づく。



⑤「食の試練」

ねらい:これまでの「試練」の成果を発揮することを通して学びを深める。また、「魔法のかまどごはん」を使った防災野外炊飯を体験することで、通常の炊飯と災害時の炊飯の違いに気づく。

「食の試練」の概要

- ・食材や薪を運ぶ
 - ・カレーは常設かまどで作る。※メタルマッチで火を起こすと学びが活かされる
 - ・ごはんは「魔法のかまどごはん」で炊く。※着火ライターの使用を推奨
- ※作業中は軍手を着用する。
- ※盛り付け時に皿に食品用ラップフィルムをかけるなどの工夫しておくが良い
- ※「食の試練」は間接指導になります。

